

## 地域のにぎわい創出拠点として――

平成29年、日高港は地域住民の交流やPR発信拠点となる「みなとオアシス」に登録されました。

代表施設である日高港新エネルギーパーク（EEパーク）では、太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギーについて学ぶことができます。

また、隣接するSioトープ（日高港塩屋緑地）には、「水木しげるが描くゲゲゲの鬼太郎と和歌山の妖怪」像が設置され、中央の親水池を取り囲むように緑地公園が広がり、市民憩いの空間を創出しています。親水池では、6月から7月ごろに御坊市生まれの蓮「舞妃蓮（まいひれん）」を観賞できるほか、色とりどりの錦鯉が泳いでいて、鯉用の餌を入れたカプセルを販売する「ガチャガチャ」があるなど、子どもから大人まで楽しめるスポットとなっています。



- ①EEパークでは、子どもたちにもやさしい内容で再生可能エネルギーを紹介。
- ②親水池に咲く舞妃蓮と、空を彩る錦鯉のぼり。思わず写真を撮りたくなる景色です。
- ③多彩な模様の鯉が泳いでいます。子どもたちに人気の餌やりスポットです。



クルーズ船寄港時の様子

日高港では、国際物流ターミナルなどの施設整備が進んだことで、大型クルーズ船の寄港が可能となりました。クルーズ船の寄港時には、港で住民・乗船客が交流できる歓迎イベントを開催するなど、御坊・日高地方の魅力のPRに努めています。令和8年1月に、「にっぽん丸」の寄港が予定されているなど、魅力ある寄港地観光の拠点としても注目されています。



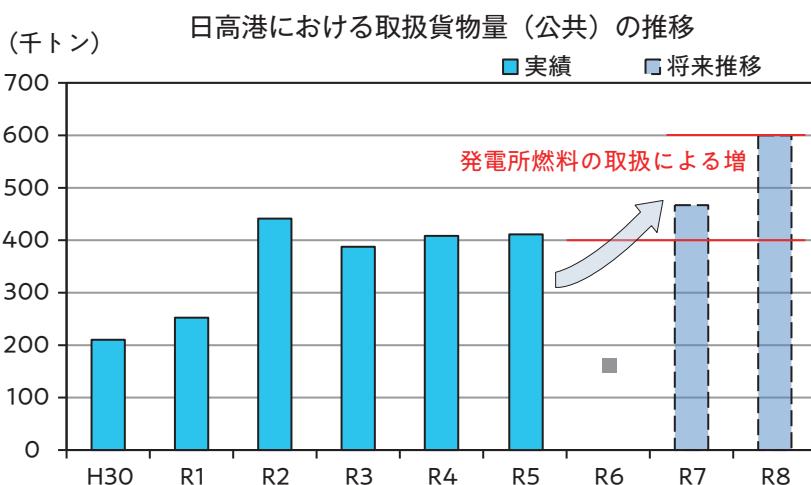
育成にもつながっています。  
進出や関連産業の効率化や安定したエネルギー供給は、新たな企業の

見込まれているなど、日高港を取り巻くこれらの変化は、本市の産業と暮らしの「これら」を大きく広げるものです。

また、和歌山御坊バイオマス発電所の燃料取扱による貨物量の増加見通しや（下図）、日高港工業団地の全区画が埋まることが見込まれているなど、日高港を取り巻くこれらの変化は、本市の産業と暮らしの「これら」を大きく広げるものです。

**にぎわいと豊かさを  
創り出す活気ある  
まちを築く**

これからも、国や県など関係機関との連携をより一層強化して、日高港の機能強化と利便性向上に取り組むことで、企業の成長と地域の振興につながる環境づくりを推進し、「にぎわいと豊かさを創り出す活気あるまち」を目指していきます。



近畿地方整備局 事業評価監視委員会（令和6年度第2回）の資料を基に御坊市が作成